

2008年度
環境活動レポート

ENVIRONMENTAL ACTION REPORT

Eco Action 21

古いけれども、新しい

鎌田醤油株式会社

www.kamada-soy.co.jp

Vol 2 : 2009年7月

～ 目次 ～

1.環境方針

2.事業概要

3.環境目標

4.主要な環境活動計画と目標及び結果の評価

4-1.主要な活動と結果

4-2.その他の環境関連活動

5.環境関連法令への違反、訴え等の有無

5-1. 適用法令等の順守状況

5-2. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

～ 1 . 環境方針 ～

当社は「最優等の醤油を作り、社会のお役に立って信用を得る」という創業の家訓を守って醤油作りに励む一方、常に「今求められる味」を目指して、お客様に美味しさと楽しさを提供して参りました。

加えて近年は「食の安全・安心」への関心が高まる中で、食品メーカーとして当然の「安全」を確保し、お客様に「安心」していただくことで一層の「顧客満足」を実現すべく努力を続けて参る所存です。ところが最近の地球温暖化や、金融資本主義の暴走による資源や食料の高騰は、このような民間企業の努力など一蹴されてしまいそうな勢いです。

そこで当社では、「安全・安心のサステナビリティ」を求めて、より低炭素で環境コンシャスな供給チェーンを形成することが企業としての社会的責任（CSR）である共に、「顧客満足」にもつながるものと確信し、全社一丸となって環境保全活動に取り組み、その結果を逐次公表していくことと致しました。

< 環境保全への行動指針 >

1. 具体的に次のことに取組みます。

- (1) 電力・燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の低減
- (2) 「低炭素社会」を目指した各種先行投資
- (3) 食品廃棄物の3R（減量、再使用、再生利用）の推進
食品製造工程の改善により、原材料ロスの低減
廃棄物リサイクル率の向上
- (4) 包装資材の節約と工程改善による包材ロスの低減
- (5) 洗浄工程の改善等による上水の使用削減
- (6) 事務用品のグリーン購入
- (7) コピー用紙の削減

2. 環境マネジメントシステムを構築し、継続的に取組みます。

3. 環境関連法規制や当社が約束したことを順守します。

4. 環境への取組みを環境活動レポートとしてとりまとめ公表します。

制定日 : 2007年 7月 4日

改訂日 : 2008年 7月 14日


代表取締役社長 鎌田 郁雄

～ 2 . 事業概要 ～

- 2-1 会社名** 鎌田醤油株式会社
代表者 代表取締役社長 鎌田 郁雄
- 2-2 所在地** 香川県坂出市本町 1-6-35
電話 0877-46-0001
FAX 0877-45-5303
- 2-3 工場** 本社工場
香川県坂出市本町 1-6-35
- 港工場
香川県坂出市入船町 2-1-59
- (帯広工場 EA21 対象外
北海道帯広市西二十条北 2-25-2)
- 2-4 環境管理責任者** 製造部長 真鍋 卓次
連絡先 TEL 0877-46-0001
- 2-5 事業内容** 醤油および醤油加工品製造販売
- 2-6 工場の規模** 生産量 7,511 トン/年
従業員数 114 人
工場床面積 6,026 m²



2-7 沿革

1789 年(寛政元年)	鎌田宇平太操業・屋号「堺屋」
1902 年(明治 35 年)	鎌田商会と改称  マークを商標登録
1941 年(昭和 16 年)	有限会社鎌田商会に改組
1970 年(昭和 45 年)	大阪万博に讃岐うどんつゆを供給
1971 年(昭和 46 年)	現在の鎌田醤油株式会社に改組
1987 年(昭和 62 年)	現、本社工場竣工 醤油の通信販売に本格着手
1994 年(平成 06 年)	通販会社、鎌田商事株式会社を設立
1995 年(平成 07 年)	港工場および配送センター竣工
1998 年(平成 10 年)	帯広工場開設
2002 年(平成 14 年)	ISO9001 認証取得 (本社工場及び港工場:醤油、醤油加工品及びめんつゆ の設計・開発、製造及び販売)
2003 年(平成 15 年)	帯広工場新築移転
2006 年(平成 18 年)	供給センター竣工(港工場および配送センター拡張)
2008 年(平成 20 年)	水産食品加工施設 HACCP 認定(港工場)
2008 年(平成 20 年)	エコアクション 21 認証取得 本社・港工場

～ 3 . 環境目標とその実績 ～

3-1 環境目標の基準年度

2006 年度（1 月～12 月）を基準年度として表 1 に掲げます。

〔表 - 1〕

2006 年度生産量 7,100t

NO	項目	2006 年実績(基準年度) 生産量 7,100t			原単位 (実績/生産量)	
		管理指標	単位	実績	合計	生産量(t)当り
1	食品廃棄物	食品廃棄物	t	287	287	0.0404
		食品リサイクル率	%	68.6		
2	食品廃棄物以外	食品廃棄物以外	t	280	280	0.0394
3	温室効果ガス	電力	t-Co2	900	2,138	0.301
		燃料油	t-Co2	1,238		
4	資源の効率的利用 (上水)	水使用量	m3	42,335	42,335	5.96
5	総エネルギー量	電力	MJ	15,947,583	33,971,068	4,785
		燃料	MJ	18,023,485		

3-2 環境目標

環境目標として基準年度ベースに表 2 のように設定しました。

〔表 - 2〕

NO	項目	取組項目	2006 年実績	環境目標(原単位/t)		
			(原単位/t)	2006 年度比		
				2007 年度	2008 年度	2009 年度
1	廃棄物	食品廃棄物(t)	0.0404	0.0400 1%	0.0396 2%	0.0392 3%
		食品リサイクル率(%)	68.6%	-	-	-
2	その他の廃棄物	食品廃棄物以外(t)	0.0394	0.0390 1%	0.0386 2%	0.0382 3%
3	温室効果ガス	CO2 排出量の削減 (t-CO2)	0.301	0.295 2%	0.292 3%	0.289 4%
4	資源の効率的利用 (上水)	水使用量の削減(m ³)	5.96	5.84 2%	5.78 3%	5.72 4%
5	総エネルギー量	総エネルギー 量の削減(MJ)	4,785	4,689 2%	4,641 3%	4,594 4%

3-3 環境負荷の実績（2008年度）

環境負荷の実績と、目標の達成状況は表3のようになります。

【表 3-1】

NO	項目	取組項目		2008年度実績 生産量 7,511t		原単位	目標	達成率	基準年比	評価判定
		管理指標	単位	実績	合計	生産量(t) 当り	(原単位/t)			
1	食品廃棄物	食品廃棄物	t	279	279	0.0371	0.0396	106.7%	108.9%	
		食品リサイクル率	%	78.2%			2%		8.9%	
2	食品廃棄物以外	食品廃棄物以外	t	247	247	0.0329	0.0386 2%	117.4%	119.8% 19.8%	
3	温室効果ガス	電力	t	994	1,813	0.241	0.292	121.0%	124.7%	
		燃料油	t	819			3%		24.7%	
4	資源の効率的利用(上水)	水使用量	m3	45,655	45,655	6.08	5.78 3%	95.1%	98.0% 2.0%	x
5	総エネルギー量	電力	MJ	17,853,010	31,593,258	4,207	4,641	110.3%	113.7%	
		燃料	MJ	13,740,248			3%		13.7%	

【表 -3-2】 環境負荷の実績(2007年～2008年)

NO	項目	取組項目	2006年実績 (実績/t)	環境目標(原単位実績) 2006年度比		
				2007年度	2008年度	2009年度
1	食品廃棄物	食品廃棄物(t)	0.0404	0.0397 1.8%	0.0371 8.9%	
		食品リサイクル率	68.6%	68.2%	78.2%	
2	食品廃棄物以外	食品廃棄物以外(t)	0.0394	0.0380 3.6%	0.0329 19.8%	
		評価判定				
3	温室効果ガス	CO2排出量の削減(t-CO2)	0.301	0.2776 8.4%	0.238 24.7%	
		評価判定				
4	資源の効率的利用(上水)	水使用量の削減(m ³)	5.96	5.83 2.3%	6.08 2.0%	
		評価判定			x	
5	総エネルギー量	総エネルギー(MJ)	4,785	4,700 8.0%	4,173 13.7%	
		評価判定				

～ 4 . 主要な環境活動計画と結果の評価 ～

4 - 1 主要な活動と結果

08年度 環境計画と評価						
方 策						
重点実施項目		実施方策		目標値		評価・結果
				部門・部署	全体	
食品リサイクル	食品廃棄物の減量	醤油オリから醤油の回収	セラミックフィルターによる回収率向上	港工場	2%削減	-2.8%削減
		オリ産廃量の低減	排水処理設備による微生物処理	港工場		
		オリ排出の低減	放液オリの減量	生揚		
		排液ロスの低減	排液量の見直し低減	製造部		
		だし滓の有効利用	節滓、昆布滓の有効利用および発生減量	製造・技術		
省資源	節水	井戸水による床洗浄	床洗浄を上水、地下水に変更	製造部	上水3%削減	+7.8%増設備増強のため
		節水洗浄	過剰な洗浄、過剰な洗浄準備水量見直し	製造部		
		不必要な水を使用しない	洗浄作業の見直しによる節水	製造部		
		元栓を絞る	止弁つきの水栓の止め弁を絞る	港配合		
		冷却水槽水入替え周期見直し	入替え周期延長見直し	港紙パック		
		冷却水量低減	バルブ操作の標準化、定期清掃	本社紙パック		
	紙	OA紙使用量低減	リユース、両面コピー、紙ベース使用方法の再検討	総務・営業・技術	1%削減	-17%削減
	ECO	グリーン購入推進	エコマーク等商品の優先購入	総務部	実績ベース	実施中 数値把握困難
	CO2削減	節電	淡口生揚濾過時間短縮	淡口生揚の濾過時間、濁度検査見直し	本社生揚	1%削減
こまめな消灯			不在時、休憩時等の消灯	全部署		
水銀灯の消灯			採光利用および必要作業以外は消す	港工場		
高効率照明への更新			水銀灯減光なしに400w 200wに変更検討	保全課		
エアコンの節電			温度・時間帯の管理、不在時の停止	全部署		
パソコン不使用時の電源OFF			同左	販売課		
効率化		勤務時間の効率運用	フレックス、季節変則勤務、土曜全休	総務・営業・技術	1%削減	-16.5%減重油 天然ガス切替のため
		ガソリン使用量削減	配送効率のアップ	配送課		
		ガス炊きボイラへの更新(港工場)	重油 ガス炊き Nox, Sox, CO2削減	保全・資材課		
	エコドライブの推進	アイドリング、急発進、急加速、空気圧、エアコン	総務・営業			
	営業ルートの効率化	運行距離の最適化	営業課			
ECO	低公害車・軽車両の購入	環境に優しい車の購入	営業課	実績ベース	実施中	
	省エネ電気製品の使用	省エネ効果を検討し購入(ランニングコスト含む)	総務部			
	私有車両通勤の削減	自転車・相乗り通勤の奨励 通勤手当支給	総務部			
廃棄物	プラ	ストレッチフィルムの低減	ストレッチフィルム パレットカバーへ変更	本社紙パック	30%	-30%減
	紙	シュレッダーの使用制限	機密文書に限り使用	技術部	5%削減	実施中 検討中
		紙パック重量低減	再設計による軽量化	製造部長		
	ガラス	茶瓶重量低減	再設計による軽量化	製造部長	5%削減	検討中
リサイクル	廃棄からリサイクルへ	カタログ、雑誌類のまとまった(30箱)引取り	総務部	実績ベース	実施中	
	自販機容器のリサイクル	不燃物 自販機横リサイクルBOXへ	全部署			
環境意識の高揚	啓蒙活動	環境方針の掲示	各建屋、部署に掲示	保全課	08年度改訂版掲示	
		環境ポスターの掲示	各建屋、部署に掲示	保全課	事務局でイラスト作成掲示	
		啓蒙教育	集合教育 1回/年以上実施	全部署	社内報でエコ関連記事掲載	

取組み結果の総括

食品廃棄物	再生利用実施率 9.5%UP の 78.2%。 目標の 80%に向けて更なる努力が必要。
水	設備増強に伴い使用量が増加。 洗浄水の低減、地下水の利用を更に進める。
CO2 の削減	2008年度はボイラを重油からガス炊きへ転換したため、対前年比 16.5%Down。 2009年度にも港工場転換予定。 更なる削減を期待している。
廃棄物	設計変更による紙パック、ガラス瓶の軽量化をメーカーとタイアップして推進したい。

～ 4-2 . その他の環境関連活動 ～

地域との調和・文化事業

小沢剛讃岐醤油画資料館

真面目かつユーモアたっぷり。醤油画に取り組む画家、小沢剛氏の作品を集めた「小沢剛醤油画資料館」を運営。

<http://www.monkeyw.com/soy/index.html>



四谷シモン人形館

四谷シモンの人形たちにとって居心地の良い展示空間として、鎌田家の旧洋館を提供しています。

<http://www.kamada-soy.co.jp/doll/>



瀬戸内フィルハーモニー交響楽団への支援

四国初のプロオーケストラ「瀬戸内フィルハーモニー交響楽団」の演奏活動を支援しています。

2008年度環境教育の推進

環境教育	社内外	人数・部数
周知・教育訓練	社内	176名
省エネセミナー・研修会	社外	6名(3件)
環境検定	社外	5名取得
社内報	社内	6件

～ 5 . 環境関連法令への違反、訴え等の有無 ～

5-1 適用法令等の順守状況

項目	能力・取扱量	台数	届出基準	関連法規	届出要否
1) 本社工場 設備系列					
ボイラ設備	都市ガス 13A ガスボイラ 蒸発量 1.2t 伝熱面積: 5.64 m ² バーナ能力: 69.4 N m ³ /h	4	伝熱面積 10 m ² 又はバーナ能力 80 N m ³ /h	大気汚染防止法	該当せず
排水処理施設	水量 85 m ³ /日処理	1	特定施設又は日平均 50 m ³ 以上	水質汚濁防止法 下水道法	対応済み
コンプレッサ	2.2～7.5kw未満	7	出力 2.2～7.5kw未満 騒音規制条例: 対象施設	騒音に係わる指定施設 (坂出市条例)	指摘事項 対応済み
	7.5kw以上	7	出力 7.5kw以上 騒音規制法: 特定施設 振動規制法: 対象施設	騒音・振動規制法	指摘事項 対応済み
送風機	3.7kw	1	出力 2.2～7.5kw未満 騒音規制条例: 対象施設	騒音に係わる指定施設 (坂出市条例)	指摘事項 対応済み
	15kw	2	出力 7.5kw以上 騒音規制法: 特定施設	騒音規制法	指摘事項 対応済み
クーリングタワー	1.8kw	1	出力 1.4kw以上 騒音規制条例: 対象施設	騒音に係わる指定施設 (坂出市条例)	指摘事項 対応済み
2) 取扱物質					
本社 + 港工場	廃棄物・マニフェスト	委託契約書締結・許可書の内容確認 マニフェスト	全て	廃棄物処理法	指摘事項 対応済み
	動植物性残渣		年間残渣合計 100t以上	食品リサイクル法	対応済み
	容器包装品		年間使用量 50t以上	容器包装リサイクル法	対応済み
	危険物		少量危険物第四類	消防法	対応済み

項目	能力・取扱量	台数	届出基準	関連法規	届出要否
1) 港工場 設備系列					
ボイラ設備	都市ガス 13A ガスボイラ 蒸発量 1.2t 伝熱面積: 5.64 m ² バーナ能力: 69.4 N m ³ /h	4	伝熱面積 10 m ² 又はバーナ能力 80 N m ³ /h	大気汚染防止法	該当せず
排水処理施設	水量 150 m ³ /日処理	1	特定施設又は日平均 50 m ³ 以上	水質汚濁防止法 下水道法	対応済み
コンプレッサ	2.2 kw	2	出力 2.2 ~ 7.5 kw 未満 騒音規制条例: 対象施設	騒音に係わる指定施設 (坂出市条例)	対応済み
	37 kw	4	出力 7.5 kw 以上 騒音規制法: 特定施設 振動規制法: 対象施設	騒音・振動規制法	対応済み
送風機	3.7 kw	1	出力 2.2 ~ 7.5 kw 未満 騒音規制条例: 対象施設	騒音に係わる指定施設 (坂出市条例)	対応済み
	30 kw	2	出力 7.5 kw 以上 騒音規制法: 特定施設	騒音規制法	対応済み

5-2 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

E A21 登録審査にて、コンプレッサ 23 台・送風機 6 台・C/T1 台における 騒音・振動規制法に係わる届出の不備、廃棄物委託契約書締結の不備を指摘され 2008 年 8 月に指摘事項を訂正・対応をとりました。

港工場ボイラ設備を、2009 年 1 月に重油ボイラから都市ガスボイラに更新し、大気汚染防止法の対象外設備となりました。

また、当社に適用される環境関連法規の順守状況を確認した結果、届出の不備はありましたが、違反はありませんでした。

最後に、関係機関等からの指摘、利害関係からの訴訟もありませんでした。

以上